一般社団法人 千葉県訪問看護ステーション協会 広報誌

菜の花

題「和風パッチワーク」金子晴美様　作

第 20 号
【発行日】令和 3 年 12 月 9 日
【発行所】一般社団法人千葉県訪問看護ステーション協会
【発行責任者】山﨑　潤子

INDEX

◇会長より…2P
◇活動報告…3P
◇特集「コロナ禍でも得られたもの」…6 P
◇編集後記…12P

千葉県訪問看護ステーション協会

会長より　ごあいさつ

会長　山﨑　潤子

会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、日頃から千葉県訪問看護ステーション協会の事業にご理解とご協力・ご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の対策に追われた１年となりました。会員の訪問看護ステーションの皆様も、当初は感染防護具の入手もままならない状況の中、在宅療養者を支えるインフラとして訪問看護ステーション運営を継続し、最前線で訪問看護利用者のケアや感染予防にあたってこられたと思います。すべての訪問看護ステーション従事者の皆様に、心から感謝申し上げます。そして今年度は COVID-19 陽性者への自宅訪問が訪問看護ステーションに求められました。ノウハウもなく手探りの中、取り組んでくださった訪問看護師の皆様にも感謝申し上げます。

協会運営も、例年通りというわけにはいかず、新役員の仕事始めは、厚生労働省から支給されたマスクを会員に配布するといったことだったように思います。研修に関しても、集合によるものは感染拡大防止の観点から実施は困難と判断し、オンラインに切り替えて開催いたしました。受講される会員の皆様も、はじめは恐る恐るオンラインに挑戦したのではと思いますが、今では「遠方でも参加しやすい」「子供の面倒を見ながらでも視聴できる」などのメリットのお声もいただいております。訪問看護師は、もともと環境が整っていなくても、創意工夫で乗り切っていくのは得意なので、その特性がコロナ禍でも発揮されているものと、頼もしく思っております。

さて当協会は、平成 29 年に法人化いたしましたが、まだまだ役員のボランティア精神に依存している所がございます。今回のコロナ禍でも感染防護具の配送や、感染対策や行政からの情報の周知、ワクチン接種、自宅療養者への訪問に関する支援金制度等について行政等への働きかけを行ってまいりました。協会が果たすべき役割は大きく、まだまだやらなければならないことも多いと感じています。令和３年度は、協会の事務局体制を充実させ、会員の要望に応えられる協会にしてまいりたいと考えております。事務作業を外部委託するなど役員の負担軽減を図りつつ、内外に発信できる協会を目指してまいります。

コロナ禍では緊張の続く毎日ではありますが、私自身は楽しいことも少しは見つけられた様な気がします。外食を自粛して自宅でせっせと食事を作っている分、多少は料理の腕も上がったような（！？）気がしています。皆様も、何か気分転換や息抜きは出来ていますか？

ワクチン接種のおかげか、この原稿を書いている 12 月初旬は感染者数も落ち着いてはおりますが、まだまだ予断を許さない現状ではあります。お互いに助け合い支えあって、この難局を乗り越えてまいりましょう！

令和２年度活動報告～教育部会～

教育部会担当　山藤響子

令和 2 年度はコロナ禍でのスタートとなりました。当初予定されていた総会での研修会もやむを得ず中止となりました。　これまでの集合・対面研修からオンライン研修への切り換えとなり、当協会もその対応に追われた１年となりました。

研修のテーマは毎年タイムリーでホットな話題提供を心がけており、今年度はコロナ中心の話題提供となりました。

■訪問看護における医療保険と介護保険（コロナの為中止）
令和２年５月 16 日(土)千葉市総合保健医療センター５階
全国訪問看護事業協会　業務主任
吉原　由美子　先生

全国訪問看護事業協会の研修や実務相談 Q&A などで幅広くご活躍されている吉原由美子先生をお招きして訪問看護業界の保険算定についての講義をお願いしておりました。この時期はまだオンライン研修などが普及し始めて間もない時期でしたので当協会の準備なども間に合わず、やむを得ず中止となってしまいました。大変残念であったと同時にオンラインでの研修環境を整えるきっかけとなりました。

■オンライン交流会（ZOOM 交流会）
令和２年８月 22 日(土)　オンライン開催
話題提供　ふたわ訪問看護ステーション　東葛所長
大桐　四季子　先生

当協会初めてのオンラインでの研修でした。参加者は 100 名超え。関心の高さがうかがえました。この研修では新型コロナに対する状況報告と共有を中心に行いました。7 つの地区部会から状況報告を行っていただき、実際にコロナ対応をした東葛南部での取り組み紹介をふたわ訪問看護ステーションの大桐所長さんよりおこなっていただきました。まだまだコロナ対応がわからない時期で戦々恐々の毎日だっただけに、この交流会では他地域の取り組みなどを聞くことができとても有意義なひと時となりました。ZOOM のブレイクアウト機能を活用し、グループワークを行いました。少数グループだと個人の意見も述べやす

く、対面研修のようなイメージでディスカッションすることが出来ました。オンラインでも他のステーションの方としっかりとした意見交換ができることを皆で体験できました。

■新型コロナウイルスについて~感染管理認定看護師の立場から~
令和２年11月21日(土) オンライン開催
千葉県がんセンター 上席看護師長 認定看護管理者
前田 佐知子 先生

この時期、千葉県内にクラスターがいくつも発生し、訪問看護業界にもその余波が来ている状況の中、タイムリーなテーマで前田先生にご講義をしていただきました。新型コロナの最新情報に始まり、クラスター発生時の体験談などを含めてたくさんの経験の知を語っていただきました。PPE やゾーニングなどまだどこか他人事であった状況下での前田先生のお話は目から鱗で、大きな意識改革に繋がりました。質疑応答も大変活発に行われ、満足度の高い研修となりました。

■事例報告会 【テーマ：訪問看護と災害】
キーワード:「台風」「停電」「新型コロナ」「地震」「災害」「訪問看護」
令和３年２月27日(土) オンライン開催
講評者 千葉大学大学院看護学研究科 訪問看護学科教育研究分野
准教授 辻村 真由子 先生

前年度は『８０５０』をテーマとしましたが今年度は『災害』がテーマ。２年連続でとても難しいテーマとなりましたがどの地区部も見事な事例報告となりました。

キーワードとしていくつかのカテゴリーをあげましたが、発表ではそれぞれの地区部会でキーワードが偏ることなく、それぞれの地域での災害看護についての事例が報告されました。特に長期間にわたる停電時のステーション対応、台風での二次的被害に際しての訪問看護などの実践報告は身につまされる思いでした。有事に際した備えの大切さを再認識できた報告会となりました。

事例報告会は今年度で記念すべき10回目。当協会の目玉研修といっても過言ではありません。毎年この事例報告会では沢山の訪問看護のエッセンスを得ることができます。発表ステーションはその準備に追われとても大変だったと思いますが、大反響だった分、発表後の達成感もひとしおだったのではないでしょうか。辻村先生のご講評はとても的確で、毎年この講評を楽しみに参加される方も多くいらっしゃるのではないでしょうか。先生はさらに事例を掘り下げて質問して下さったり、事例に付随して根拠を述べてくださったり、更なる大きな学びを得ることが出来ます。

今年度の事例報告会は初めてのオンライン開催でしたが、何とか支障なく進行できて教育部会としても胸をなでおろしております。

毎年この時期は雪などの悪天候で遠方から参加される方は大変な思いをされていたと思いますが、今年度はオンラインでしたので例年よりも参加者が多かったのも良かったです。

＜発表者のみなさま＞
1. 千葉市地区 恵泉マリア訪問看護ステーション 根本 綾子 様
2. 東葛北部地区 訪問看護楓 吉川 誠 様
3. 東葛南部地区 総合リハビリ訪問看護ステーション 高澤 康子 様
4. 香取海匝地区 多古町訪問看護ステーション 大里 美佐子 様
5. 印旛山武地区 さんむ医療センター訪看ステーション 山本 美智代 様
6. 夷隅長生市原地区 バナナの葉訪問看護ステーション 佐藤 尚一 様
7. 安房君津地区 ほほえみ訪問看護ステーション 西藤 庄子 様

令和２年度はコロナ元年と言っても良いほど、イレギュラーな状況の連続でした。しかしながら有事の際だからこそ「オンライン」での研修開催を積極的に行い、協会メンバーの情報共有に役立てたことをとてもうれしく感じています。

今しばらくオンライン開催が続くことが予想されますが、協会としましても柔軟に対応していけるように体制を整えていきたいと思います。研修のテーマや内容につきましても世の中の状況に合わせながら選定していけたらと考えております。

前年度に開催し好評だった新任管理者研修の開催が今年度は実現しなかったため、次年度の開催に向けて準備をしていきたいと思います。また、研修ごとにアンケートを実施しておりますので、協会で行ってほしい研修テーマなどがありましたら是非ご意見を頂けたら幸いです。よろしくお願い致します。

特集　コロナ禍でも得られたこと

東葛北部

コロナ禍でも得られたこと～スタッフ達と作るものがたり～

ものがたり訪問看護ステーションかしわ　土屋　美保

コロナ禍で大変な１年でしたが、スタッフに今まで以上に助けてもらったある１日のお陰で、スタッフのことを信頼し、共に働けていることに改めて感謝ができた日がありました。

2020年４月から管理者に就任しました。管理業務は初めてで、分からないことだらけな状況とコロナ禍でステーション内の対策を話し合う日々で、毎日何とか仕事をこなすだけで精一杯な日々でした。

そんな７月のある夕方に、ご利用者様の１人がコロナウイルスの濃厚接触者になった、と連絡が入りました。そのご利用者様の自宅に自分自身が訪問して接触しており、当時ステーション内での直行直帰も完全な状態ではなく、スタッフ間の接触もありました。スタッフ全員で話し合い、濃厚接触となったご利用者様の PCR 検査結果が出るまでの数日間、ステーションを一時閉鎖にすることを決めました。閉鎖が決定後、夜中までスタッフ間で連絡を取り合い、ご利用者様、居宅、病院やクリニックへ、誰がどこに連絡をしていくかを決めました。また、ご利用者様のトリアージを行い、必ず訪問が必要な方を絞りました。幸いにも接触していないスタッフも数名いたため、訪問が必要な方を依頼することができました。翌朝、スタッフ間での報告と連絡が何十件も飛び交い、情報整理が追い付かず、頭の中はもうパンク状態になっていました。自分自身もご利用者様と接触があったため、自分の体調にも何もないことを祈りながら、不安に襲われていました。そんな１日を過ごし、無事にご利用者様の検査結果が陰性と分かり、翌日からすぐに全員で訪問を再開することができました。

結果が出るまで、怒涛の１日でした。スタッフも全員疲れた日であるはずなのに、皆が随時「土屋さんの体調は変わりないですか？」、「何もないことを祈りましょう。」、「もし何かあっても自分が訪問回りますよ。」と心強い連絡をくれていました。状況を見て何も言わず当日の緊急当番を変わってくれたスタッフ、週末も自分が緊急当番でしたが「疲れたでしょう、週末は変わりますよ、ゆっくり休んで下さい。」と、当番を変わってくれたスタッフもいました。最後は「チーム全員で乗り越えましたね。」と、お互いに声を掛け合うことができ、皆の優しさと思いやり、強さに、涙が出るほど嬉しかった気持ちは今でも鮮明に覚えています。

この閉鎖の日から、直行直帰や zoom でのミーティングの活用、もしもまた閉鎖になった場合の対応として、ご利用者様への同意や説明、訪問時の対策を随時更新しながら対応しています。一生忘れないであろう大変だった１日を、また繰り返さないように決心したのと同時に、信頼でき自慢のスタッフと共に働けていることを噛みしめ、ご利用者様やご家族とだけでなく、スタッフとの【ものがたり】もたくさん作っていきたいと思っています。

東葛南部

コロナ禍でも、得られたもの

訪問看護ステーションあゆみ　竹内純一

2019年末から猛威を振るっている新型コロナウイルス、2020年１月頃からマスクが不足し多くの事業所で消毒用のアルコールや感染防具が入手困難な状況が続いていました。当ステーションも訪問看護ステーション協会や市からの配布、他事業所からの支援もあり困難を乗り越えながら業務を行う事ができました。

コロナウイルス感染予防は人との接触を避ける事です。その為今まで当たり前のように人が集まって行われていた多職種との勉強会や交流会がなくなり、退院へ向けての会議やサービス担当者会議も制限されすべての職種が集まることはなく紙面や電話でのやりとりが多くなりました。元々介入しているすべての職種の方と会うことはありませんが、直接会って情報を交換する事で在宅生活を支援する環境作りの一つになっていたと思います。

接触を避けることからリモートによる会議や勉強会が主流になり、当ステーションとしてもパソコンの購入やタブレット端末を使用し連携をとれる体制を整えました。初めて行うリモートでの退院支援会議では不安と緊張もありましたが、実際に参加してみるとスムーズに行うことができました。リモートで多職種との連携もとれ介入につながりました。また病院まで行く事が当たり前であった以前に比べると時間を省くことができとても効率が良く仕事が行えると感じています。多くの助成もあり衛星材料、パソコンやタブレット端末、事務所内のアクリル板の設置など感染対策のとれる環境作りをすることができました。多職種との連携の大切さを改めて感じると共に連携が円滑に図れることで業務効率も向上しました。

感染対策はどんなに勉強や指導をしてもスタッフ一人一人の意識がとても重要です。マスクの着用、訪問時・退出時・処置を行う前後の手指消毒、使用物品の消毒等、今までも当たり前のように行ってきたこと一つ一つが流れ作業で行うのと、目的を考えて意識して行うのとでは全く違います。意識する事で的確に感染対策が行えるようになります。実際に当ステーションでもアルコールゲルの使用量や衛星材料の消費量が以前に比べて増加しており確実に感染対策に対して意識が向いていると考えられます。

新型コロナウイルスによって多くの問題がありましたが、一つ一つの問題を乗り越えていくことが事業所としての成長となり働きやすい環境を作ることに繋がっていると実感しています。『幸い転じて福となす』ということわざがあるように、身にふりかかった災難を活用して自分達の役に立つように利用できるように変化し対応していくことが大切だと感じています。

千葉

コロナ禍　訪問看護師たちが行く

まくはり訪問看護ステーション　佐藤富子

新型コロナウィルス感染症のアウトブレイクによって、私たちの生活は大きく変わりました。利用者さんも訪問看護師も、新しい生活の中で、みんなが一生懸命に変わらないものをさがしているように思います。

しかし一方で、得たものもたくさんあることに気が付きます。

例えば、リモート会議やオンラインセミナー等です。遠い未来の事の様に考えていたテレビ会議は、強制的にではありましたが一気に現実のものになりました。やや物足りなさはあるものの地方に出かけて行かなくても学会参加ができ、たくさんの遠方の仲間と会えるようになりました。ICT を利用し合理化も進みました。リモートの診察や看護もされているところもあると聞いています。電話訪問でも報酬が付くようになりました。私は、機械が苦手なので、初めはイライラして気が狂いそうになりました。しかしそれも、いつも助けてくれる人がどこかに必ずいてくれて、何とか触れるようには成長しました。

また、看護師として感染予防に関する知識、スキルも身につきました。標準予防策を順守すること、感染しない、させないためにはどう行動すればいいのかを、みんなが自分事として考えぬきました。物不足には「ガウンがなければ、自分たちで作っちゃおう」「アルコールがなければ、ハイターがある」これらは、看護師人生にとって貴重な経験であり宝ものになりました。スタッフみんなで、感染防護具として使えるものをかき集めたり、工夫したり、「うちではこうしてるよ」と ST 協会の仲間たちと情報共有したり･･･ふり返ってみれば楽しい時間でした。不安の中でも、「私たち、結構やるね！」と笑いあって元気がでました。また、利用者さんやご家族、支援してくださる方からの、励ましのお言葉。手作りのガウン等「少しでも」とプレゼントしてくださるお気持ちに、本当に励まされました。

コロナ禍にあって、仕事がなくなり経済的に苦しんでいる方はたくさんいます。自死する人も多くいると報道できます。訪問看護師として、利用者さんたちは大丈夫だろうかと心配になったり、時には不安や孤独に押しつぶされそうになる時もあります。また、自分は感染源になっていないだろうか、自分だっていつ発症するかわからないと考えたりもします。

私は、体が頑丈な事だけが取り柄なのですが、先日体温が 39℃に発熱しました。その時は「ついに来るべき時が来た」と覚悟し、最期の治療の希望も決めました。人工呼吸器が必要な状態になってしまったら、若い人に着けてもらうために辞退しますと家族に言いました。幸い 1 日で解熱して検査も陰性でしたが。

この出来事によって私は、誰のために、何のために、看護をしているんだろうと、改めて考える機会をもらいました。今、また訪問看護ができるありがたさを実感しています。

私たちは、見えないものに脅かされて、見えないものと戦い続けています。そして一方では、見えないものにこんなに支えられているんだとも教えられました。

繋がれる仲間がいるから、今日も何とかがんばれる。大切な家族がいるから、何とかふんばれる。自分のために、利用者のために、おたがいがしあわせになるために、一日一日を大切に丁寧に過ごしていこうと、見えない敵に教えてもらっているのだと思います。

千葉

～「コロナ渦でも得られたもの」～アンケート結果

訪問看護ステーション加曽利　鈴木眞寿美

ご協力ありがとうございました。（対象：56 件中、40 件回答）

コロナ渦でこれを理由にやめた方は一人もいなかったという事でした。

＜コロナ渦での不安要素としては＞

自分や家族が罹患しないか

今後の動向について

コロナ渦での不安要素

＊防護服使用し訪問する事が大変
　　＊クラスターを起こさないか
＊自分が ST に持ち込まないか
　　＊利用者に移さないか

＊熱ある方で上気道感染と分かっているが陽性かもという不安
＊ワクチンの安全性

＜管理していくうえで大変だった事は＞

感染防止対策
・PPE 調達
・防護レベルの判断
・感染予防の徹底
・環境整備　・車の中の密
・BCP の作成　・正確な情報収集

スタッフや利用者の管理
・濃厚接触者となった職員もしくは職員の家族により自宅待機となったスタッフへの配慮
・関連施設でコロナ発生の連絡を受けた時の対応
・熱ある利用者への配慮
・体調不良時の休みの判断

＜上記に対しての対策として＞

・感染予防の徹底　・防護レベルの話し合い　・感染対策で悩んだらフル装備にする
・健康管理　・休日はしっかり休む　・事務所での密を防ぐ　・換気、手洗い、含嗽の徹底
・情報収集しその都度対応　・信頼できる専門家を見つけ発信される内容を基に対策たてる
・待機中のスタッフと定期的に連絡を取り精神的なフォローをする　・チームワークの強化
・管理職の訪問を減らし報告、連絡、相談対応を出来る体制づくり
・発熱時は法人病院で対応できる事をインフォメーションする

＜コロナ渦で以前よりも良くなったと感じたことは＞

・ICT の活用・オンライン会議が増えた・研修が ZOOM で参加しやすくなった
・健康管理の徹底・支援金を活用し社用車が充実した　・業務改善が出来た
・在宅見取りが増えた・法人全体の連携が深まった・清潔操作を見直せた
・スタッフ同士リモートでのやり取りが増えた、以前より申し送りに参加しやすくなった
・以前よりも FAX・電話・メールのやり取りで合わなくても済むことが以外にある
・インフルエンザの感染者が少なかった・感染対策の向上　・無理をしないようになった
・無駄なことが減った（おしゃべりなど）・残業が減った・感染対策マニュアルの見直し

＜＜表紙の絵について：作者・金子晴美様、夫・金子秀則様から～＞＞

＜作者について＞

妻は 1992 年に発病・難病と判明されてから気持ちも落ち込み、身体も不自由 になる一方でした。 2000 年に住んでいた家での介護の困難さを解消するのため、土地を探し車椅子で生活できるバリアーフリーの家を新築・転居しました。 同年スタートした介護保険の介護認定は既に要介護度「5」でした。 2003 年夫が定年退職してからは夫婦 2 人だけの生活になりました。 妻は自分の身の回りのことが出来ず、TV を見るなど受身・後ろ向きだけの生活でした。 2004 年にリハビリの先生から身体障害者用のパソコン・「伝の心」を紹介されました。「伝の心」は重度身体障害者の意思を伝達するために開発されたパソコンの システムですが、妻はパソコンに備わっていた絵を描くアプリ・ペイントを 見つけ触りだしました。 線が引け、色を付けられることに興味・喜びを見いだし、発病後自分では何も出来ないと諦めかけていた気持ちが、自分でもできること・絵が描けるのだと前向きに取り組み始めました。 当初は指先でスイッチを押して絵を描いていましたが、現在は指も動かなくなったので、頬の横に光電式のスイッチ（写真参照）をセットし顔を動かし・頬をスイッチに近づけて絵を描いています。 加齢に伴い身体の不自由さが増していますが、ヘルパーさんやリハビリ、訪問看護、口腔ケアでのバックアップや車椅子・クッション、介護ベッド・リフトなど福祉用具の進歩と訪問入浴・ディサービスなどに助けられ何とか 老々在宅介護を続けています。

＜表紙の絵について＞

妻が表紙の絵に付けたタイトルは「和風パッチワーク」です。 パッチワークは妻が病気になる前に趣味にしていました。 これまでにペイントで作ってきた 300 以上の作品から和風的なイメージの絵 の一部を三角形に切り取り、パッチワークで縫い合わせるようにつなげたものです。 妻の実家は京都で和服の手描き友禅をしていましたので、子供の頃から見慣れた着物の模様などが絵の素材になっているようです。 作品はハガキに印刷して、介護・看護などでお世話になっている方々に差しあげたり、友人や離れて暮らす 3 人の息子・お嫁さんや 6 人の孫などの誕生日・クリスマスなどに絵ハガキにして送っています。 作品を少しでも喜んで頂けることが、自分への励みとなり生きがいになって いるようです。

＜南柏訪問看護ステーション・所長　杉山数穂＞

2004 年から訪問させていただいています。ゆるやかな進行ではありますが ALS という深刻な病名からは想像できない穏やかなご夫婦です。今までも Skype、Facebook、今は zoom も利用し家族間交流されゲームも楽しまれるなど、コロナ禍においても「困ったことは無い今まで通り」と笑顔で話される素敵なご夫婦です。

千葉県訪問看護ステーション協会に入会しませんか？

新型コロナウイルス感染症蔓延、自然災害と、ここ数年は特に集団の力がなければ乗り越えられない危機が続いています。千葉県訪問看護ステーション協会は行政や他団体と協力し、会員のステーションに情報提供や物的支援を行っています。

【協会理念】

訪問看護ステーションの経営、サービスの質の確保、向上を図ることにより、訪問看護事業の健全な発展を推進し、県民の健康福祉向上に努める

【活動内容】

県全体の活動と地区部会での活動があります。各地域での課題をより具体的に捉えるために、県内を 7 つの地区部（千葉市、東葛北部、東葛南部、香取・海匝、印旛・山武、夷隅・長生・市原。.安房・君津）に分けて、地域での繋がりを深めています。具体的には、「総会」「地区部会会議」「訪問看護の質の向上のための講演会・研修会」「訪問看護理解促進の PR 事業」「看護協会との連携会議参加、各モデル事業への参加」「各団体への会議参加や問題提起など」「地区部会や会員訪問看護ステーションからの各種要請に対し支援」「ホームページより必要な情報や各種必要用紙がダウンロード出来る」等があります。

【入会方法】

当協会ホームページの「入会を希望される方へ」をご参照ください。

会員の皆様のご理解と協会への参加をお願いいたします。

ご寄付の御礼

東洋羽毛工業株式会社様　60 万円

コロナウイルス対策にお使いくださいとのことでご寄付いただきました。
コロナ禍での研修会や会議の機材等に大切に使わせていただきたいと考えております。
ありがとうございました。

金子晴美様ご夫妻

＜編集後記＞

「菜の花」はいかがでしたか？コロナ渦での訪問看護活動も２年目を迎えて、地域でたくましく奮闘されている看護師の姿を思い描く事ができたのではないでしょうか。それぞれが活動を通して同じ事を感じ、未曽有の災害ともいえるコロナウィルスを前にしても怯むことなく訪問看護活動を続けて地域の方々に安心を提供している状況は近い将来コロナウィルスが撃退されると信じたいです。これからも「頑張れ」とエールを送りたい、そんな記事になっていればと思います。　　（広報部：小宮山、杉山、鈴木）

一般社団法人千葉県訪問看護ステーション協会　http://www.chiba-houkan.gr.jp/
【事務局】千葉市稲毛区宮野木町 1752-15　緑ヶ丘訪問看護ステーション内
☎　070-4106-8738(平日 9～17 時)　　FAX 03-6682-4171